学校番号	１１５

平成３１年度　国語科

教科	国語科	科目	古典Ｂ	単位数	２単位	年	３年
類型等	共通						
使用教科書	「古典Ｂ（古文編・漢文編）」　（第一学習社）						
副教材等	基礎から解釈へ新しい古典文法四訂新版（桐原書店） マドンナ古文単語２３０パワーアップ版（学研）　マドンナ古文常識２１７パワーアップ版（学研）　漢文学習必携（京都書房）　等						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

３年の「古典Ｂ」の授業では、１年次・２年次で学習した古文の基礎（文法・単語・古文常識）と漢文の基礎（文の構造・語彙・句形）を発展させ、初見の文章に接しても応用の利く読解力を身につけることを心がけましょう。また、長い時間を経て読み継がれてきた古典作品に接することで、自分のものの見方や感じ方を深め、人生を豊かにできることを感じて欲しいと思います。そのために具体的に以下の学習に取り組んでください。

・本文写し、音読、重要語句の意味調べ、品詞分解、現代語訳などの予習をしておく。
・作品の背景、文学史についての知識を身につける。
・場面設定・登場人物設定・古文常識を理解し、文構造・文章構成に注意して本文を読みすすめる。
・文法事項（古文）・基本句形（漢文）を反復学習し、読解力につなげる。
・小テストはしっかり準備をして取り組み、知識が定着するように復習する。
・便覧を用いて関連した事項を調べ、知識・関心を広げる。
・宿題や提出物などは期限を守り、定期考査には計画を立てて臨む。

２　学習の到達目標

・古文・漢文の読解力を養う。
・古典作品に接することでものの見方、感じ方、考え方を深める。
・伝統的な言語文化に対する興味・関心を持ち、積極的に読もうという意欲を持つ。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典を読む力を進んで高めるとともに、古典についての理解や関心を深めようとしている。	古文、漢文を正確に音読し、内容を的確に読み取ったり、その価値を考察したりして自分の考えを深める。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまりなどの理解を深め、知識を身につけている。
評価方法	・行動の観察（学習活動における発言内容や取り組みの様子。） ・記述の確認、分析（ノート、プリント、学習課題）	・行動の観察（学習活動における発言内容） ・記述の確認（ノート） ・小テスト ・定期考査	・記述の確認（ノート、プリント、ワークシート） ・小テスト ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点			単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	d	e		
1	随筆	『枕草子』	○	◎	○	a:課題に取り組んでいる d:主張・心情を読み取っている e:文法理解のもとに適切な現代語訳ができる	a・d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
1	逸話	『説苑』 『新序』	○	◎	○	a:課題に取り組んでいる d:文章の展開を理解する e: 句法理解のもとに適切な現代語訳ができる	a・d:行動の観察及び記述の確認 e:小スト及び定期考査
1	古代の史話	『戦国策』	○	◎	○	a:課題に取り組んでいる d:登場人物の関係、行動、心情を理解する e: 句法理解のもとに適切な現代語訳ができる	a・d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
2	物語	『源氏物語』	○	◎	○	a:課題に取り組んでいる d:登場人物の関係、行動、心情を的確に読み取っている e:文法理解のもとに適切な現代文語訳ができる	a・d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
2	物語	『大鏡』	○	◎	○	a:課題に取り組んでいる d:登場人物の関係、行動、心情を的確に読み取っている e:文法理解のもとに適切な現代文語訳ができる	a・d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
2	明代の文章	『誠意伯文集』	○	◎	○	a:課題に取り組んでいる d:登場人物の関係、行動、心情を理解する e: 句法理解のもとに適切な現代語訳ができる	a・d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査
3	日記	『蜻蛉日記』	○	◎	○	a:課題に取り組んでいる d:作者の主張を読み取っている e:文法理解のもとに適切な現代語訳ができる	a・d:行動の観察及び記述の点検 e:小テスト及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　d:読む能力
　　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置づけて○印を、またその単元で主として扱う国語の領域（「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。